

増刊号

はんの木だより

発行

特別養護老人ホーム

美土里荘

美土里荘

家族会



第二回一泊旅行

花鳥溪谷バラ園にて

7月4、5日、美土里荘の利用者と職員の一泊旅行が実施されました。昨年の浅虫温泉に引き続き、第二回目の旅行でした。男性利用者3名、女性利用者10名、職員7名、それにご家族も5名同行して下さり、総勢25名で行って来ました。生憎の雨模様でしたが、事故や病気もなく無事に帰ることができました。楽しい旅行の思い出作りのために、来年度以降も続けたいと思っております。ご家族の参加も大歓迎ですので、どんどんご参加下さい。また、地域の皆様のご来荘もお待ち致しております。

特別養護老人ホーム

美土里荘

〒039-25 青森県上北郡七戸町字寒水70-17

電話 0176-62-2761

◇家族のこえ◇

十和田湖一泊旅行同行記

(田嶋まつゑさんの長女) 木村 南江子さん



七月四日(水)雨
待ちに待った
旅行の当日、興
奮状態が最高潮
に達した母は、

「食事をして途中で用便を足すと迷惑をかけるから。」と、昼食にも手をつけず出発直前まで身体の不調を訴えていました。まわりでは、口紅をつけてもらったり、おめかししてもらったり、付き添いの家族や、荷物を運び出す職員の方々であわただしくなってきました。母もやっと、私が同行することを知り、安心した様子でした。そして一時三十分、予定より十五分早く、雨の中を十和田湖に向けて出発しました。

車中では、天間さんのユーモアあふれるガイド振りに、だんだん楽しくなってきました。車窓を濡らす雨を見て「どうして今頃降る雨のことを梅雨と呼ぶのか知っていますか? この言葉は中国から入ってきたんです。中国でも今の季節は梅の花が咲いているそうです。それで梅の花の

咲く頃に降る雨を梅雨と呼びます」

とても学のある説明をしてくれました。が、「花はとくに終わった、今はもう実がなっている。花ではなく実でしょう。」と横槍が入り、一同大笑いとなりました。やがて奥入瀬溪流が見えてきました。雨で水の量が増え、岩に勢いよく当たって、まるで我先にと競走しているかのように流れていました。

七月五日(木)曇り

二日目は雨も上り、予定通り花鳥溪谷見学となりました。ツンツンとバラの香りがする庭園を、私達は足早に歩いたり、立ち止まったりしながら、しばし贅沢な時を過ごしました。案内役の木村さんが、面白いことを話してくれました。「この庭園には千種類、五万本のバラが植えてあります。御覧なさい、この若いバラにはトゲがありません。みなさんの知っているトゲのあるバラは、年とったバラです。バラのルーツは、はまなすの花です。どうぞ皆さんも年とったバラのように、なりませ

んように。」と。私は母を見ましたが、母のトゲはしおれ、むしろ私の方が母に対して、たった二日間の介添いなのに、トゲトゲしくなっていました。さあ気分を変えて、いよいよ帰りのバスの中。白木さんのお誕生日でした。七十五歳を六十八歳と主張する御本人、私達はお祝いに歌を合唱しました。奥入瀬溪流の樹木は、昨日の雨でホコリが洗い落されて、とても緑がきれいでした。皆さんのナニヤドヤラや追分を聞いているうちに、美土里荘に無事帰ってきました。

星食の支度が整っていました。私と母は、食堂に向かいました。

◇ ◇ ◇

帰ってから、旅行に付き添った職員の方々は、寝ずの看病をして下さったことを知りました。只々頭の下がる思いです。私はたった二日でしたのに、もうイライラして、笑った顔も引きつっていました。皆さんは全身でニコニコして、一睡もしないというのに、昼御飯の手伝いをしたりしているのを見て、祈らずにはいられません。どうぞ、これから皆さんの御家族と、お一人おひとりの上に、主の愛と恵みが豊かにありますように、お祈り申し上げます。

◇ちいさな主張◇

飾らない自分

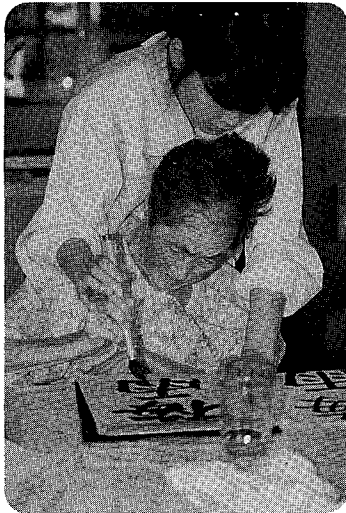
主任寮母 野田頭 真里子

私が福祉の仕事に携わり、七年になろうとしています。その時々、いろんな壁にぶつかり悩みましたが、何もできないまま過ぎてしまったように思います。そんな私が、この仕事を続けることができたのは、常にアドバイザーしてくれる人がいることと、『自分でやりたかった仕事でしょう。』と、自分自身にはっぱをかけてきたからだと思います。

この頃、色々な仕事の難しさを悩んでいたら、忘れかけていた福祉の仕事をしたかったきつかけを思い出しました。

私の小学校時代、一学年下左右の足の大きさが2、3センチメートル違うという女の子がいました。たまたま帰り道も同じだったせいか、その女の子と話してみたいと思いました。それ程重度の障害を持っていたわけでもないのに、皆からかわれ、仲間はずれになっていたようでした。かけっこをしたって一番遅いのは分かっている、それでも走らなければならない、そんな気持なん

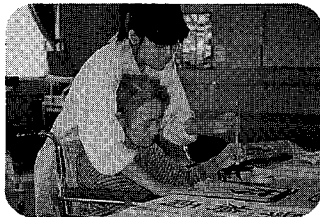
あの日 この日のスナップ集



お見事！



うまく書けるべが



私は左利きでありません



美人三姉妹？



浴衣姿キマツテルベエ～

書道クラブ



どうしてワタシだけひとりなの？

十和田湖 一泊旅行



どこから見ても親娘



正真正銘のご夫婦



利用者と担当職員です



〈祭りだ祭りだワッショイ!!〉



8月4日、平成二年度夏まつりが楽しく盛大に行われました。利用者の方々に職員、そしてご家族と地域の皆様のご参加により、参加数約二百人、美土里荘の広場が沸きかえりました。広場にやぐらを

建て、ちようちんを飾り付け、模擬店をかまえて、さあはじまりはじまり。今年は三回目ということで、盆踊りに加えて十和田市の和太鼓愛好会の皆さんの太鼓演奏披露が、祭りの気分を盛り上げました。踊りの輪も広がり、職員もつられて「アラエツサッサー」。

祭りはご参加頂いた皆様のご協力のもと、楽しく思い出深い一日となりました。これから沢山の方々のご来荘、お待ち致しております。

実習生紹介

本年度の青森大学の実習生を紹介します。

坂本明子さん 社会学部三年

将来は福祉施設への勤務を希望している坂本さんは、まじめで優しい心の持ち主です。

いつまでも失わないで頑張ってください。



橋本健くん 社会学部三年

真っ黒に陽焼けした橋本君にサッカー少年とニツクネームが付きました。子供の頃からずっと続けているそうです。健康的で明るくさわやかで、そのうえまじめで人なつっこい好青年です。9月には再び美土里荘にさわやかな風が吹くことでしょう。



編集後記

初めてのチャレンジ『増刊号』とあえず出発、「やったネ」But、すぐはんのき第7号にとりかからなくちゃ……無理するもんじゃないわつ。 まき

一泊旅行、県の監査、夏祭り大きな行事が続き、新聞作りが後回しになってしまいました。第7号はもつとじつくり腰をすえて取り組もうと思います。

増刊号は一部特集で載っていますので、ぜひ読んで下さい。



生活まめ知識



☆おにぎりをアルミ箔やラップに包み、昼には蒸れて腐った、なんて事はありませんか？おにぎりは昔ながらに竹の皮に包むのが一番。竹の皮は蒸れないだけでなく、それ自体に強い殺菌力があるんですって。

☆洗濯機に飲み残した白ワインを一杯、あとは普通にお洗濯。すると、洗濯物がなんともふんわり仕上がるんですよ。

☆歯が黄ばんでいるのは、見た目にもよくないものです。そこでひと工夫。イチゴをすりつぶし、ハブラシにつけてブラッシング。黄ばみや汚れが落ちて、真っ白な歯になります。

おトボケ家族

作：TAKUBON

